

やさしい病害虫講座 27

「小さないたずらっ子」

木村 裕

昨年(2016年)の秋、ベースキャンプの裏の背高のつぼの柿の木に鈴なりにになっている果実が突然黒変しました。

何か実が腐る病気が発生したのかと思い、さびついた頭の中の知識?をフル動員したものの、思いあたるものはありません。奥の手でルーペ(拡大鏡)を取り出して果実と葉を調べたところ、小さな黄色の虫が見つかり原因が判明しました。



アザミウマと称する虫で、皆さん方にはなじみのないグループですが、一方ハウス栽培野菜農家にとってはにつつき害虫です。

成虫でも長さ2~3ミリと小さく、色は黄色~褐色、細長い虫ですのでを見つけることは難しいでしょう。幼虫は白~黄色で、やはり細長くてスマートです。主として柔らかい葉の裏に寄生しますが、花にも集まります。



成虫、幼虫とも頑丈なあごで葉の表面を齧って傷つけて、そこから染み出す汁を吸いとります。その結果葉の被害部は、上から見ると白い斑点から斑紋となり、裏面の破壊された部分は日が経つと褐色になります。

成虫は葉の組織内に卵を産み付け、ふ化した幼虫は半月もすれば十分に成長し、蛹となって地上に落下します。

ならやまの柿で発生したのはクロトンアザミウマという種類で、クロトンやサングジュで、ときどき発生します。専門書には柿でも発生するとは書いてありましたが、私にとっては初めての経験でした。

さらに柿ではカキクダアザミウマが発生します。春に枝が伸び新しい葉が開くときに、葉が葉巻のように縦にまるまるのが特徴で、気が付かれた方もいるかも。

アザミウマには花が好きなグループもいます。花卉から汁を吸うグループと、花粉を食べるグループがいます。花卉を傷つけられるので、花の寿命が短くなります。洋ラン、バラ、ヘメロカリスなど花卉の厚いものに被害が目立ちます。海外からのランの持ち込み禁止も、この虫が大きな原因の一つとなっています。

カトレアやデンファレ、カラーなどの葉に白いカスリが発生することがありますが、これはクリバネアザミウマという種類が寄生して、汁を吸ったために生じた被害です。

皆さんに最も親しいのはネギにつくネギアザミウマだと思います。汁を吸われた青ネギの葉は白っぽくなり、よく見ると葉の表面がカスリ状に白く変色しています。

